共通テスト英語リーディング

時間配分シート

80分・8大問・44マーク。時計を見るのは3回だけ。

80分
100点
44マーク

1 標準の時間配分（目標8割）

1	2	3	第4問 7分	第5問 11分	第6問 12分	第7問 13分	第8問 15分	見直し

大問	素材	配点	マーク	目安	合計	時刻	上限
第1問	短い実用文	6	3	4分	4分	15:24	5分
第2問	調査・報告＋意見	12	4	6分	10分	15:30	8分
第3問	短い物語	9	6	6分	16分	15:36	8分
第4問	下書きの推敲	12	4	7分	**23分**	**15:43**	9分
第5問	複数の資料	16	6	11分	34分	15:54	13分
第6問	物語＋まとめ	12	8	12分	**46分**	**16:06**	14分
第7問	説明文＋発表資料	16	6	13分	59分	16:19	15分
第8問	意見文の組み立て	17	7	15分	**74分**	**16:34**	—
見直し	マークの確認・★の問題			6分	80分	16:40	—

時計を見る3回

23分 第4問が終わっている

46分 第6問が終わっている

74分 44マークが埋まっている

2分ルール

1問で**2分考えて決まらなければ**、仮の答えをマークして★をつけて次へ。

空欄のまま進まない（マークずれの原因）。

見直しの6分

- **2分**：マーク漏れ・ずれ
- **3分**：★を配点の大きい順に
- **1分**：NOT・two の読み直し

2 得点帯別の配分（分）

目標	1	2	3	4	5	6	7	8	見直し
6割を超えたい	5	7	8	9	13	12	11	9	6
7割を確実に	4	6	7	8	12	13	13	11	6
8割（標準）	4	6	6	7	11	12	13	15	6
9割を安定して	4	5	5	7	11	12	13	15	8
満点を狙う	4	5	5	6	10	11	13	15	11

どこで点が動くか

39点 前半（第1〜4問）語数は約30%
61点 後半（第5〜8問）語数は約70%

第8問（17点）を白紙にしない。問1・問2（各3点）は短時間で取れる。

読む速さ

約75語/分 5,550語 ÷ 74分
約100秒 1マークあたり

WPM ＝ 語数 ÷ 秒 × 60。文章そのものは150語/分が目標（まずは120語/分）。

解く順番を変えるなら

- 第8問が毎回白紙 → **1 → 5 → 6 → 7 → 8 → 2 → 3 → 4** ／ 物語に時間がかかる → **第6問を最後に**
- **本番で初めて順番を変えない。**過去問・模試で3回試して、点が上がった型だけを使う。

3 なぜこの配分になるのか：語数・配点・1分あたりの点

大問	語数	配点	マーク	100語あたりの点	目安	1分あたりの点	ここから分かること
第1問	275	6	3	2.2	4分	1.5	短いが、マークと確認で4分は要る
第2問	458	12	4	**2.6**	6分	**2.0**	読む量のわりに点が高い。急ぎ過ぎない
第3問	400	9	6	2.3	6分	1.5	並べ替えは全部合って点が入る
第4問	542	12	4	2.2	7分	1.7	見る場所がはっきりしている
第5問	768	16	6	2.1	11分	1.5	資料の行き来で時間が延びやすい
第6問	962	12	8	**1.2**	12分	**1.0**	読む量が多いのに12点。粘らない
第7問	991	16	6	1.6	13分	1.2	骨組みを先につかめば速くなる
第8問	1,154	17	7	1.5	15分	1.1	配点が最大。白紙にしない

「1分あたりの点」は 配点 ÷ 目安の分。前半は短い時間で点が入り、後半は時間がかかる。だから**前半を上限の中で確実に取り、後半に51分を残す**のが標準の配分です。

4 大問ごとの「時間が延びる原因」と止め方

大問	時間が延びる原因	止め方
第1問 上限5分	全文を最初から読む。絵の選択肢を見比べ過ぎる	設問を先に読み、必要な所だけ探す。絵は違いが出る1点（数・位置・形）だけを比べる
第2問 上限8分	数字を全部確かめ直す。誰の意見かが混ざる	名前に丸をつけ、意見を名前ごとに分ける。数字は設問で聞かれたものだけ確かめる
第3問 上限8分	並べ替えのために全文を読み直す	読みながら出来事に番号を振り、余白に時間の線を書く。起きていない1つを先に消す
第4問 上限9分	下書きを最初から丁寧に読む	コメント(1)〜(4)を先に読み、指している段落を中心に読む。入れる位置は指示語で決める
第5問 上限13分	資料の間を何度も行き来して探し直す	資料ごとに役割をひとことメモ（お知らせ・申し込み・返事）。日付・人数・料金に四角
第6問 上限14分	物語を味わって読む。全部合って点が入る設問で粘る	設問とアウトラインを先に見て、探すものを決めてから読む。14分を超えたら仮の答えで次へ
第7問 上限15分	例や実験の細かい所まで同じ丁寧さで読む	段落の1文目で話題を一語メモ。例（for example の後ろ）は速く読み、聞かれたら戻る
第8問 残り全部	5人の意見を何度も読み直す	名前の横に ○×△ と理由を一言。カッコの指定で探す場所を決める。問1・問2を先に取る

5 得点帯別の使い方：通過時刻も変わる

目標	第4問の後	第6問の後	第8問の後	この配分の考え方
6割を超えたい	29分（15:49）	54分（16:14）	74分（16:34）	前半と第5問を確実に取る。第8問は9分で、問1・問2など短時間で取れる設問から拾う
7割を確実に	25分（15:45）	50分（16:10）	74分（16:34）	前半を少し速くして、第8問に11分。第5問の条件の読み落としを無くす
8割（標準）	**23分（15:43）**	**46分（16:06）**	**74分（16:34）**	3つの通過時刻を守る。第8問に15分を残す
9割を安定して	21分（15:41）	44分（16:04）	72分（16:32）	第2・3問を5分ずつにして、見直しを8分に。★の問題を解き直す
満点を狙う	20分（15:40）	41分（16:01）	69分（16:29）	見直し11分で、全部合って点が入る設問（第3・6・8問）の根拠を確かめ直す

使い方：今の得点より**1つ上の行**を選ぶ。一度に2つ上の配分にすると、読み飛ばしが増えて点が下がりやすい。時刻は15:20開始の場合。

6　時計を見る練習

1. 開始の合図の後、問題冊子の第4問・第6問・第8問の最後のページの上に、通過時刻（**15:43・16:06・16:34**）を書く。
2. そのページに来たときだけ時計を見る。途中では見ない。
3. 遅れを「分」で一言メモ（例：＋2）。
4. 普段の演習では、開始時刻を 0:00 にして **23・46・74** で練習する。

時計は腕時計を机の左上に置く。会場の時計は見えない席もある。

7　通過時刻で遅れていたら

遅れ	すること
2分まで	そのまま進む。慌てて読み飛ばさない
3〜5分	2分ルールを「1分半」にする。全部合って点が入る設問で粘らない
6分以上	第8問は問1・問2を先に解く。見直しの6分を解く時間に回す
早過ぎる（3分以上）	読み飛ばしの合図。次の大問は根拠に線を引いてからマーク

74分の時点で空欄があれば、考える前にまず全部マークする。

8　時間が足りなくなる人の5つの型と直し方

型	こうなっている	直し方
①全部を丁寧に読む型	設問を見ずに、本文を最初から最後まで同じ速さで読む	設問を先に読み、探すもの（名前・数字・NOT）を決めてから読む。例の部分は速く読む練習をする
②返り読みの型	1文を2回以上読む。日本語の語順に直そうとする	スラッシュで前から読む（練習のときだけ。本番では書かない）。一度解いた英文を音読する（1日10分）
③1問にこだわる型	2つに絞った後、3分以上迷う。空欄のまま次へ進めない	2分ルール。仮の答えをマークして★。迷った2つの番号を余白に書いておく
④根拠を探し直す型	選択肢を読むたびに本文を最初から探す	人名に丸、数字に四角。段落の横に話題を一語メモして、戻る場所を作っておく
⑤時計を見ない型	気づいたら残り10分で、第8問が手つかず	通過時刻を3つ書く。大問ごとの上限を超えたら次へ進む

自分の型を知る方法：過去問を1回解いて、大問ごとにかかった分を記録する（下の表）。目安より2分以上長い大問に、型が表れている。

9　過去問で配分を調整する手順（3回分）

① 1回目：測る
標準の配分で解き、大問ごとの分を記録

▶

② 原因を1つ決める
一番延びた大問と、その原因（4 の表）

▶

③ 2回目：1か所直す
動かすのは合計2〜3分まで

▶

④ 3回目：固める
点が上がった配分を本番の配分にする

- 80分を通して解く。大問が終わるたびに、ストップウォッチの時間を問題冊子に書く（1回5秒）。
- 配分を変えるときは、**足した分をどこから引くか**を決める。合計が80分になるようにする。
- 点が下がった変更は元に戻す。3回とも同じ大問で延びるなら、配分ではなく解法や読む速さの練習が先。

10 記録表：かかった分と得点を書き込む

大問	配点	目安	1回目（　／　）分	点	2回目（　／　）分	点	3回目（　／　）分	点
第1問	6	4分						
第2問	12	6分						
第3問	9	6分						
第4問	12	7分						
第5問	16	11分						
第6問	12	12分						
第7問	16	13分						
第8問	17	15分						
見直し	—	6分		—		—		—
合計	100	80分						
通過：第4問の後（目安23分）								
通過：第6問の後（目安46分）								
通過：第8問の後（目安74分）								
★をつけた数／次に直す1か所								

11 記録の読み方：次に何を変えるか

記録に表れたこと	考えられる原因	次の回にすること
1つの大問だけ、目安より2分以上長い	その大問の解き方（見る順番）	4 の表の止め方を1つだけ試す。その大問だけ別の年度で解き直す
どの大問も1〜2分ずつ長い	読む速さ・返り読み	配分は変えず、音読と、前から読む練習（スラッシュは練習のときだけ）を毎日10分。WPM を週に1回測る
時間の中で解けているのに、点が低い大問がある	配分ではなく、根拠の取り方	間違えた設問の根拠の文に線を引き直す。誤答の型（言い過ぎ・すり替え）を確かめる
第8問に入るのが60分より後	前半か第6問で上限を超えている	上限を問題冊子に書いて守る。それでも遅れるなら、解く順番を変える型を試す
見直しの時間が残らない	2分ルールを使えていない	★の数を数える。0個なら、迷った設問で止まり過ぎている
時間が5分以上余る	読み飛ばし、または力がついた	正答率が8割より低ければ、後半に1〜2分ずつ足す。高ければ1つ上の得点帯の配分へ

12 残り時間が少ないとき

残り	すること
15分で第8問に入っていない	今の大問に仮の答えをマークして第8問へ。問1・問2から解く
10分	1問解くたびにマークする（まとめて塗らない）
5分	新しい長い設問に入らない。空欄を全部埋め、マークのずれを確かめる
1分	解答番号 44 まで塗ってあるかだけを見る

13 よくある質問

- **マークはいつ塗る？**　大問が1つ終わるごとにまとめて塗り、最後の解答番号（3・7・13・17・23・31・37・44）で確かめる。残り10分からは1問ずつ。
- **見直しで答えを変えてよい？**　本文に根拠の文を見つけたときだけ変える。「何となく」では変えない。
- **時間が余ったら？**　★ → NOT・two の設問 → 全部合って点が入る設問の順に確かめる。

自己チェック：本番までにできるようにすること

- [ ] 8つの大問の目安の分を、何も見ずに言える
- [ ] 通過時刻（23分・46分・74分）を問題冊子に書いてから解いている
- [ ] 大問ごとの上限を超えたら、仮の答えをマークして次へ進める
- [ ] 2分迷った設問に★をつけ、空欄のまま進んでいない
- [ ] 過去問を80分通して、3回以上、大問ごとの分を記録した
- [ ] 自分の「時間が足りなくなる型」と直し方を言える
- [ ] 見直しの6分で何をどの順にするか決めている
- [ ] 解く順番は、3回試して点が上がった型に決めてある

配点・マーク数は大学入試センターの令和7・8年度本試験の正解で確認。語数は2026年度の問題冊子を数えた値で、「100語あたりの点」「1分あたりの点」はそこから計算したものです。時間配分・上限・遅れたときの対応・5つの型は、新形式の配分を公開している25サイトの比較と語数・マーク数から決めた原田英語の目安です。